

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-49	高等学校	家庭	保育基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家庭 707	保育基礎		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領にそって、高校生が学ぶべき基礎・基本の内容を本文で扱い、さらに補足的な内容や解説、近年の保育の動向などを側注やかこみで扱うなど、幅広い内容を取り上げた。 ・子どもは、自立心や協同性、道徳性や規範意識などを遊びを通して身につけていくことを示した。 ・子どもの食事・栄養、病気・事故予防などについて、実践的な内容も交えて具体的に扱った。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・人は愛着関係を土台として自己肯定感が育まれていき、心身共に豊かに育っていくことを具体的に扱った。 ・保育実習のページを設けたり、章末で子どもに関わるさまざまな職業の人へのインタビューを掲載したりするなど、子どもに関わる職業についてのイメージを持つことができるようにした。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって望ましい生活習慣は、子どもを取り巻く大人が態度や行動で示していくことが求められることに触れた。 ・子どもは権利を持つ主体として位置づけられており、さまざまな権利を持っていることや子どもの人権の重要性を扱った。

<p>第4号 生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育所保育指針」などに動植物への愛着や生命尊重が扱われていることを取り上げ，子どもはそれらを遊びを通して身につけていくことを示した。 ・子どもの食生活において「動物や植物の命をいただく」ことへの感謝の気持ちが食育を通して育まれることを扱った。
<p>第5号 伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・唱歌やわらべうた，伝承遊びなど古くから親しまれてきた遊びが現代にも受け継がれていることを示した。 ・外国につながるのある家庭の子どもや世界の子どもたちの現状，子どもに関わる国際比較の統計を扱うなど，子どもと他国との関わりが理解できる内容を扱った。

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>巻頭・巻末</p>	<p>【巻頭】新生児・胎児について扱い，生命誕生のしくみやその構造など視覚的に伝わるよう工夫した（第4号）。</p> <p>【巻末】誕生～就学までの発育・発達が一定の順序性をもって進むことが理解できるよう表で示した（第1号）。</p>	<p>巻頭・巻末 1～ 7</p>
<p>Topic, Column</p>	<p>保育に関わる社会課題や身近な話題を取り上げ，社会を形成する一員としてその背景や解決方法を考察するきっかけとした（第3号）。</p>	<p>p.11,20,21など</p>
<p>Work</p>	<p>本文で扱う学習内容をさらに保育に関連づけて，より実践的な学習活動を通して子どもに関わる基礎的な知識と技術を習得できることをめざした（第1号）。</p>	<p>p.2,16,70など</p>
<p>保育クイズ</p>	<p>幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養うために，保育に関わる幅広い知識を本文下部にクイズ形式で示した（第1号）。</p>	<p>p.10-11,12-13,14-15など</p>
<p>章末</p>	<p>子どもに関わる職業に就く人へのインタビュー記事を掲載し，具体的な仕事内容，子どもへの気づき，仕事のやりがいなどを紹介した（第2号）。</p>	<p>p.24,66,108 など</p>

●章ごとの特色

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1章 子どもの保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健やかな発達を促すための保育の必要性と意義、保育者の役割や保育の環境など、保育を学ぶ意義やその重要性を現代の保育課題を交えながら扱った（第3号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.10～23
2章 子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの身体的・精神的な発達の特性について体系的に学んだ後、それぞれの月齢・年齢ごとに見られる特徴的な発達の姿について確認できる流れとした（第1号）。 ・胎児期については、妊娠中の注意事項を丁寧に扱い、生命を守るためには細やかな配慮が必要であることが学習できるようにした（第4号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.26～64 ・ 巻頭 3～4, p.50～51
3章 子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活リズム・食生活・衣生活などについて実践活動も交えて具体的に取り扱い、健やかに成長するための保育方法が体系的に習得できるようにした（第1号）。 ・子どもの病気・事故や応急処置など、安全な環境づくりの重要性と関連づけてなど具体的に扱った（第1号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.68～91 ・ p.100～107
4章 子どもの文化	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの文化、遊びと表現活動について、伝統的な遊びから現代の遊びまで幅広く扱い、遊びが果たす役割やその重要性、また遊びをめぐるこんにちの課題についてまで学習が深められるようにした（第5号）。 ・さまざまな実践活動を通して、遊びと表現活動に関連する技術が身につくよう配慮した（第1号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.110～117 ・ p.121, p.124～127
5章 子どもの福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉に関わる法律や制度について理解を深めるとともに、現代の社会的支援の課題や現在の動向を知ることで、社会の一員として子どもが豊かに育つことができる社会をつくる一員としての自覚を促せるよう配慮した（第3号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.140～155

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	中学校における学習内容を踏まえ、丁寧な記述、平易な文章表現、豊富なイラスト・写真などを盛り込んで、内容的な理解が深まるよう配慮をした。また子ども・子育ては保育者や子育て家庭だけでなく社会全体で支えていくことが大切であり、持続可能な社会の実現の基本であることを示した。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	専門科目として保育における知識を網羅し、関連する技術的な内容を、Work などの実践活動を通して習得できるよう構成した。また、保育に関わる仕事に就く人へのインタビューを扱い仕事を具体的に紹介し、さまざまな形で子どもと関わる人の姿を示すことで将来の進路についてイメージできるよう配慮した。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	子ども・子育てに関わる社会的状況や社会的支援が抱える課題について具体的に触れ、今後社会の構成員としてどのような課題解決の方向があるのか、考えられるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-49	高等学校	家庭	保育基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家庭 707	保育基礎		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

子どもの発達と保育に関する基礎的な知識と実践的内容が身につくよう以下の点に配慮した。

- ・ 各節の学習のポイントを冒頭に置き, どのような学習内容を扱っているかを理解しやすいようにした。
- ・ かこみ部分 (Topic や Column) で, 現代の保育の課題や保育に関する身近な話題などを紹介し, 学習内容について実社会や実際の保育と関連づけて考えられるようにした。
- ・ 各所に学習内容と関連した実践活動「Work」を置き, 保育に関する実践的内容が身につけられるようにした。

1章 子どもの保育

- (1) 子どもとの接し方や指導方法など保育者に求められる子どもとの関わり方について具体的に説明した。
- (2) 家庭保育と集団保育について, その基本的な役割を扱い, それぞれが子どもの心身発達にどのような役割を果たすのかを記述した。また, 単に役割だけにとどまらず, それぞれが抱える問題点, 課題などについても取り扱った。
- (3) 保育環境の変化について統計などの資料を用いて具体的に取り上げ, 現代の保育環境の特徴について理解できるようにした。

2章 子どもの発達

- (1) 子どもの身体的・精神的な発達について, 写真や図, イラストでわかりやすく説明しながら理解できるようにした。
- (2) 乳幼児期は人間形成などの点から重要な意味を持っており, この時期の保育が大切であることを示した。

- (3) 胎児の発育状況は出生後の健康にも大きく関わることから、妊娠期における親の生活上の注意や胎児期の発育などを学べるようにした。

3章 子どもの生活

- (1) 子どもの生活リズム・食生活・衣生活などについては、実践活動を交えながら保育の実践的な知識と技術が習得できるようにした。
- (2) 病気については、病気の早期発見ができるよう、日常生活における注意点やよく見られる症状などを示すとともに、その予防として定期健康診査の受診や予防接種があることを示した。
- (3) 安全については、起こりやすい事故と子どもの発達を関連づけながら具体的に示し、大人が子どもの身のまわりの安全に注意を払うことの重要性や具体的対策、応急処置の方法を示した。

4章 子どもの文化

- (1) 子どもの文化は文化活動や児童文化財、児童文化施設などさまざまなもので構成されており、それらが果たす役割や意義について具体的に扱った。
- (2) 子どもの文化、遊びと表現活動について、実践活動を交えながら子どもの健やかな発達を促すために必要な技術が身につくようにした。

5章 子どもの福祉

- (1) 児童福祉がどのように保障され、それが子どもや子どもを取り巻く人々の生活にどのように関わるのかを説明することによって、児童福祉の意義を理解できるようにした。
- (2) 児童福祉法などの法律や児童福祉のための機関や施設について、より理解を深められるよう具体的に扱った。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	配当時間
1章1節 保育の意義	(1) ア	p.10~13	1
1章2節 保育の方法	(1) イ	p.14~17	1
1章3節 保育の環境	(1) ウ	p.18~23	1
2章1節 子どもの発達の特徴	(2) ア	p.26~27	1
2章2節 子どものからだの発達	(2) ア	p.28~39	4
2章3節 子どもの心の発達	(2) ア	p.40~49	4
特集 月齢、年齢別の発育・発達	(2) イ, ウ	p.50~64	8
3章1節 子どもの生活と養護	(3) ア	p.68~91	8
3章2節 生活習慣の形成	(3) イ	p.92~99	15
3章3節 健康管理と事故防止	(3) ウ	p.100~107	4
4章1節 子どもの文化の意義と支える場	(5) ア, ウ	p.110~117	4
4章2節 子どもの遊びと表現活動	(5) イ	p.118~127	6
5章1節 子ども観	(4) ア	p.136~139	1
5章2節 子どもの福祉	(4) イ	p.140~149	1
5章3節 子育て支援	(4) ウ	p.150~155	1

計 60